

# 日本語指導が必要な外国人児童生徒のライフチャンス

## —高校進学から卒業までの支援体制構築に向けて—

<研究代表者>

萩原 孝恵 山梨県立大学 国際政策学部

<共同研究者>

池田 充裕 山梨県立大学 人間福祉学部

斉藤 祐美 山梨外国人 인권ネットワーク・オアシス

小林 信子 ユニタス日本語学校

原田 かおり やまなし子ども学習支援連絡協議会、山梨県立大学非常勤講師

川手 ちなみ ソルデアミーゴ太陽の友だち

---

### 1. はじめに

日本語指導が必要な外国人児童生徒の「ライフチャンス」の一つとして、「高校進学」そして「高校卒業」があるように思われる。そこで本プロジェクトでは、高校進学のためにどのような支援が必要か、また高校に入学してから高校卒業までどのような問題が現場にあるのかを調査することにより、山梨県における今後の支援体制構築に向けた課題を見出ししていく。

まずは、本プロジェクトがテーマに掲げた「ライフチャンス」とは何か、について共有する。永野（2017: 34-35）<sup>1</sup>は「ライフチャンス」を、「社会的に構築された選択肢（オプション）と社会的なつながり（リガチュア）の相互作用により決定される行動の機会」であると説明している。「ライフチャンス」に関して小西（2007）<sup>2</sup>は、ライフチャンスの不平等が子どもの貧困につながっていると指摘している。小西（2007）は、ライフチャンスの不平等が子どもの貧困につながることを、次頁図1の「子どものライフチャンスの相互関連モデル」により説明している。小西（2007）の当該モデル図が示唆している点は、子どものライフチャンスを取り囲む上位カテゴリー、かつシステムの下に、「家族」が存在しているという点である。すなわち、子どもの「ライフチャンス（選択肢）」は「家族」の影響を受けることが示唆されている。そして「家族」は、「システム（教育・社会保障・雇用）」の影響を受けることが示されている。小西（2007）が示しているこの相関図は、外国にルーツのある家族・子どもたちにとって、さらに深刻な課題を突き付けているように思われる。

---

<sup>1</sup> 永野咲（2017）『社会的養護のもとで育つ若者の「ライフチャンス」』明石書店

<sup>2</sup> 小西祐馬（2007）「子どもの貧困とライフチャンスの不平等」岩川直樹ほか（編）『貧困と学力』114-131、明石書店

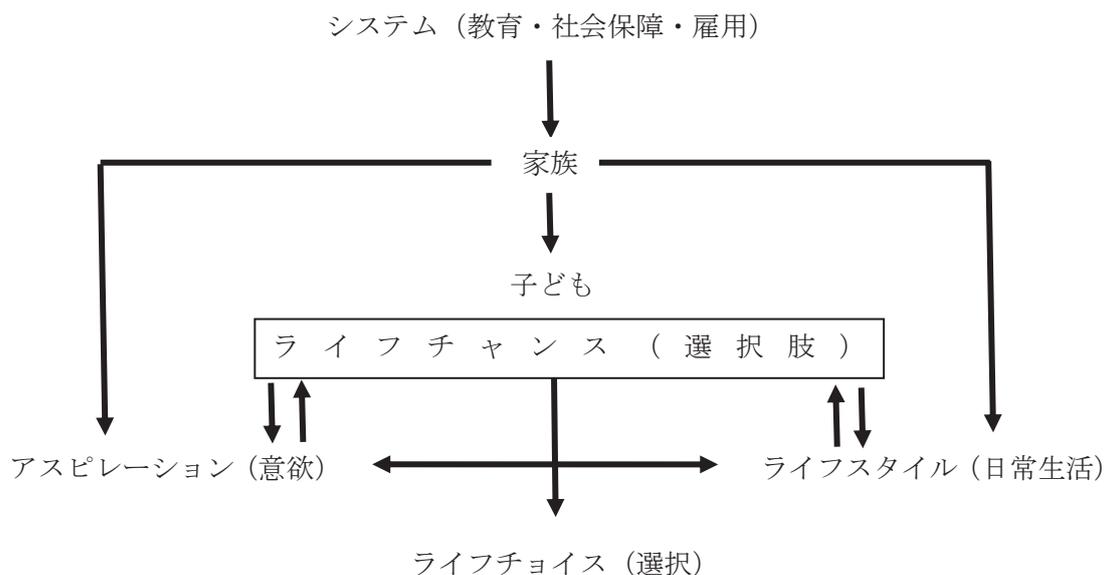


図1 子どものライフチャンスの相互関連モデル (小西 2007:115)

## 2. プロジェクトの概要

本プロジェクトでは、冒頭でも述べたように、日本語指導が必要な外国人児童生徒の一つの「ライフチャンス」として、「高校進学」そして「高校卒業」があると考え、今年度は大きく二つの事業に取り組んだ。一つは継続を目標として取り組んできた地域の方たちとの連携・協働による〈実践〉、もう一つは県内の高校における日本語指導の現状を把握するために行った国際政策学部と人間福祉学部教員による〈研究〉である。2.1で本プロジェクトの実施体制について、2.2で地域における重要な教育支援として認識されていくための取り組み〈実践〉について、2.3で教育支援体制構築に向けた山梨県における高校入学後の調査の必要性〈研究〉について報告する。

### 2.1 実施体制

本プロジェクトの実施体制について、図2にその概略図を示す。図2の左側が〈研究〉、右側が〈実践〉についてである。

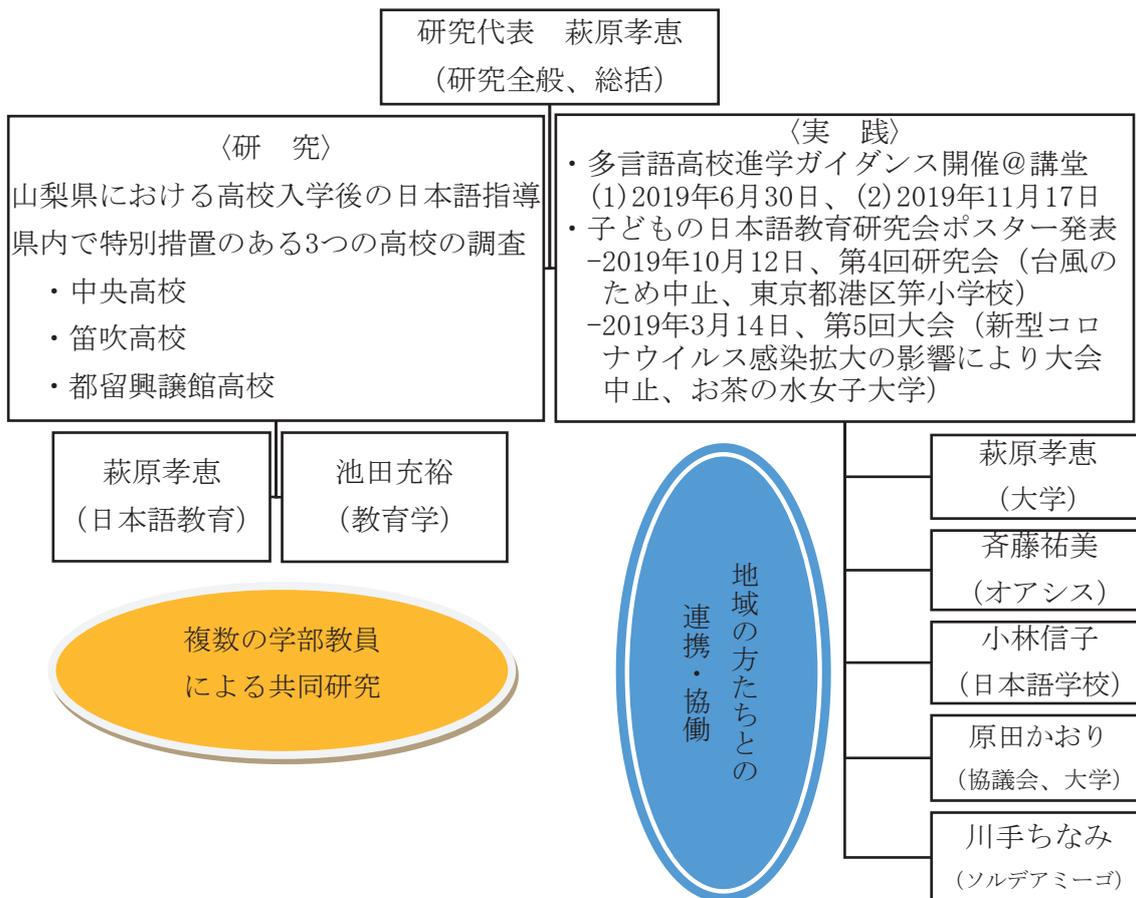


図2 実施体制と概要

## 2. 2 地域における重要な教育支援として認識されていくための取り組み〈実践〉

山梨県内で県独自の「多言語による高校進学ガイダンス」を継続して開催していくことは重要かつ必要な取り組みである。本プロジェクト〈実践〉では、2019年6月30日（日）に第1回目進路進学ガイダンスを、2019年11月17日（日）に第2回目高校進学ガイダンスを開催した。使用言語は、これまでのニーズに基づき5言語（中国語、ポルトガル語、英語、スペイン語、やさしい日本語）で対応した。参加者数は1回目と2回目を合わせて76名、これに当日の協力者とスタッフ56名を加えると、今年度のガイダンス参加者数は延べ132名に上った。この結果は、過去5年間の中で最も多い人数であった。また、山梨での実践について全国へ発信するために、子どもの日本語教育研究会第4回研究会に応募した。以下、2.2.1で多言語による高校進学ガイダンスについて、2.2.2でポスター発表について報告する。

### 2. 2. 1 多言語による高校進学ガイダンス

2015年度よりガイダンスを開催し、今年で9回目となった。図3は、2015年度から2019

年度までの参加者数の推移と参加者の国籍である。図3中8・9という番号が付いているデータが今年度の結果で、参加者数が増加していることがわかる。今年度の参加者数は、過去最高の76名(28名+48名)を記録した。なお参加者の国籍については、ブラジルが最も多く、次いで中国であった。この傾向はこれまでと変わっていない。

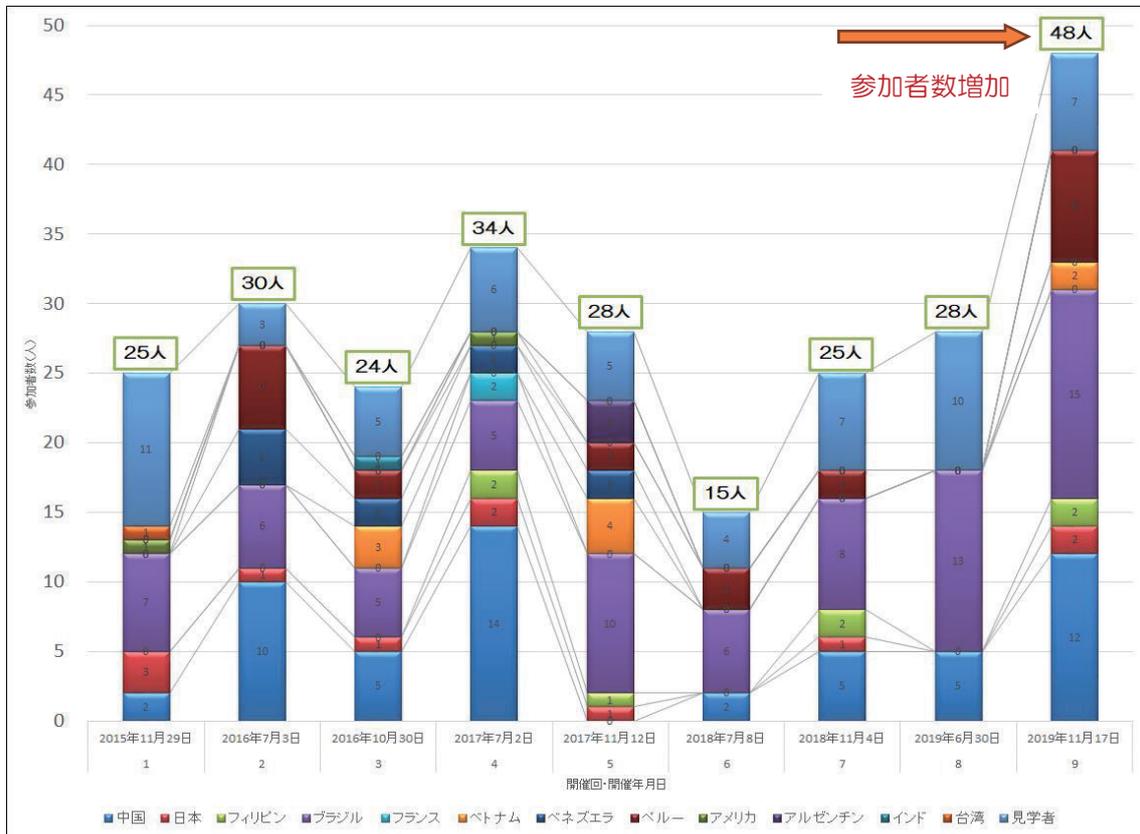


図3 つながりのある国・地域と参加人数 (2015年～2019年)

表1は図3の具体的な人数を示したもので、次の表2はガイダンスに関わったスタッフ数と役割一覧を示したものである。

表1 つながりのある国・地域と参加人数一覧 (2015年～2019年)

回数	開催日	参加者数一覧												見学者	合計	
		参加者														
		アメリカ	アルゼンチン	インド	台湾	中国	日本	フィリピン	ブラジル	フランス	ベトナム	ベネズエラ	ペルー	小計(組数)		
1	2015年11月29日	1	—	—	1	2	3	—	7	—	—	—	—	14(10)	11	25
2	2016年7月3日	—	—	—	—	10	1	—	6	—	—	4	6	27(9)	3	30
3	2016年10月30日	—	—	1	—	5	1	—	5	—	3	2	2	19(11)	5	24
4	2017年7月2日	1	—	—	—	14	2	2	5	2	—	2	—	28(11)	6	34
5	2017年11月12日	—	3	—	—	—	1	1	10	—	4	2	2	23(9)	5	28
6	2018年7月8日	—	—	—	—	2	—	—	6	—	—	—	3	11(5)	4	15
7	2018年11月4日	—	—	—	—	5	1	2	8	—	—	—	2	18(9)	7	25
8	2019年6月30日	—	—	—	—	5	—	—	13	—	—	—	—	18(8)	10	28
9	2019年11月17日	—	—	—	—	12	2	2	15	—	2	—	8	41(18)	7	48

表2 スタッフ一覧 (2015年～2019年)

回数	開催日	会場	講師			通訳者						高校 ブース	ロール モデル	協力者	学生			開催者	翻訳者								合計 (延べ)
			全体	実演	個別	英	韓	ス	タ	中	ポ				ポ	ポ	バイト		英	韓	ス	タ	中	ポ	ベ		
1	2015年11月29日	A館 4階	2	—	2	1	1	2	—	3	2	—	—	—	5	—	5	1	1	2	—	3	1	—	31		
2	2016年7月3日	A館 401・402・403	2	—	2	1	1	1	1	1	—	—	—	2	—	5	1	1	1	1	1	1	1	—	23		
3	2016年10月30日	A館 401・402・403・406	2	—	4	1	2	1	—	1	1	—	—	2	—	5	1	1	1	—	1	1	1	—	24		
4	2017年7月2日	A館 401・402・403	1	—	4	1	—	2	1	1	2	2	—	2	—	5	1	—	1	1	1	1	1	—	28		
5	2017年11月12日	A館 401・402・406	2	—	4	1	—	2	—	2	2	4	—	2	—	3	5	—	—	—	—	—	—	—	27		
6	2018年7月8日	A館 502・504・505・506・510	3	—	4	1	—	2	—	1	2	—	2	1	2	—	5	—	—	—	—	—	—	1	24		
7	2018年11月4日	A館 サテライト教室	1	2	4	1	—	2	—	1	2	4	—	1	3	—	5	—	—	—	—	—	—	—	26		
8	2019年6月30日	B館 講堂	1	—	4	1	—	2	—	1	2	1	3	1	4	—	5	—	—	—	—	—	2	—	27		
9	2019年11月17日	B館 講堂	1	2	4	1	—	1	—	2	1	5	—	1	3	2	5	1	1	1	—	1	1	1	34		

〈第1回目〉 外国人保護者とその子どもたちのための進路進学ガイダンス

- 〈1〉 日時 2019年6月30日(日) 13:00～16:30 (12:00より受付)
- 〈2〉 場所 山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂
- 〈3〉 使用言語 5か国語(中国語、ポルトガル語、英語、スペイン語、やさしい日本語)
- 〈4〉 参加者 2か国、計28人(ブラジル13、中国5、見学10)
- 〈5〉 目的 外国人児童生徒の保護者とその子ども、通訳者、支援者を対象に、進路進学について母語で学ぶ機会を提供する。
- 〈6〉 後援 山梨県教育委員会、山梨県国際交流協会、甲府市教育委員会、中央市教育委員会、笛吹市教育委員会、南アルプス市教育委員会  
協力 甲府市 市役所ホームページでの紹介および広報
- 〈7〉 実施後 振り返り

【全体会】 進路進学に関する話 50分

講師 土屋賢一郎教諭(甲府市立東中学校)

- 1) 高校へ行くことの大切さ
- 2) 山梨県の高校の種類は?
- 3) 公立高校について
- 4) 私立高校について
- 5) 高校合格に大切なこと

【ロールモデルとの交流会】

- ・大学生 (韓国につながりのあるAさん)
- ・社会人 (コロンビアにつながりのあるBさん)
- ・専門学校生 (ブラジルにつながりのあるCさん)

\*このほか、会場には5名の高校生が協力者として参加してくれた。

【個別相談会】

担当 土屋賢一郎教諭、清田礼子教諭、市川秀子教諭、望月秀太教諭(2人1組)

希望者 4組、11人(ブラジル6、中国5) \*ブラジルの親子1組キャンセル

〈第2回目〉 外国人保護者とその子どもたちのための高校進学ガイダンス

- 〈1〉 日時 2019年11月17日(日) 13:00~16:30 (12:00より受付)
- 〈2〉 場所 山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂
- 〈3〉 使用言語 5か国語(中国語、ポルトガル語、英語、スペイン語、やさしい日本語)
- 〈4〉 参加者 6か国、計48人(ブラジル15、中国12、ペルー8、日本2、フィリピン2、ベトナム2、見学7)
- 〈5〉 目的 外国人児童生徒の保護者とその子ども、通訳者、支援者を対象に、進路進学について母語で学ぶ機会を提供する。
- 〈6〉 後援 山梨県教育委員会、山梨県国際交流協会、甲府市教育委員会、中央市教育委員会、笛吹市教育委員会、南アルプス市教育委員会
- 協力 甲府市 広報誌「KOFU 広報甲府」(2019年11月号, No.766, p.15)  
本学&山梨県教育委員会の連携・周知⇒山梨県立大学学長の依頼により、山梨県教育委員会を通じて、校種を超えた周知が実現  
山梨外国人人権ネットワーク・オアシス「オアシス会報 第36号」でガイダンスの報告
- 〈7〉 実施後 振り返り

【全体会】 高校進学に関する話 50分

講師 土屋賢一郎教諭(甲府市立東中学校)

- [内容] 1) 高校へ行くことの大切さ  
2) 山梨県の高校の種類は?  
3) 公立高校について  
4) 私立高校について  
5) 高校合格に大切なこと

【面接試験の実演：土屋賢一郎先生&望月秀太先生】



【現役高校生先輩モデルとの交流】

- ・駿台甲府高等学校 (ブラジルにつながりのあるDさん)
- ・星槎国際高等学校 (ブラジル・ペルーにつながりのあるEさん)

- ・城西高等学校 (インドにつながりのある F さん)
- ・白根高等学校 (ブラジルにつながりのある G さん)
- ・中央高等学校 (ペルーにつながりのある H さん)

#### 【個別相談会】

担 当 土屋賢一郎教諭、今澤悌教諭、望月秀太教諭、市川秀子教諭（4人体制）  
 希望者 15組、37人（ブラジル15、中国9、ペルー7、日本2、フィリピン2、ベトナム2） \*中国の親子3組キャンセル

#### ■ ガイダンスはイベントではない!

多言語による高校進学ガイダンスの開催は、2015年から地域研究交流センターの地域研究課題として取り組んできた活動である。しかし、このような実践的な取り組みは時にイベント的であると捉えられてしまう。だが、これまで継続してきた「山梨県独自の多言語によるガイダンス」の開催が単なるイベントではなく、地域における重要な教育的支援であることは、2019年衆議院文部科学委員会での下記事項により明らかである。

#### ● 「日本語教育の推進に関する法律案」成立

2019年5月22日、超党派の日本語教育推進議員連盟によって作成された「日本語教育の推進に関する法律案」が、衆議院文部科学委員会に提出され可決された。この法案の第26条に「…（略）…地域の状況に応じた日本語教育の推進のために必要な施策を実施するよう努めるものとする」とある。

#### ● 「外国人生徒の高校進学の問題」に言及

2019年5月22日、衆議院文部科学委員会において中川正春議員が「外国人生徒の高校進学の問題」に言及し、ガイダンス実施の重要性・高校入学後の支援策の必要性を指摘した。

こうした国内の動向は、本プロジェクトチームが地域研究交流センター事業の一環として2015年より継続して取り組んできた「多言語による高校進学ガイダンス」の意義を立証するものである。なお今後はさらに、山梨県内でのこうした取り組みへの理解と周知を行っていくために、官学民連携・協働による支援体制の構築を大学から発信していくことが必要であると考えます。

### 2. 2. 2 ポスター発表

本プロジェクトでは、山梨県における〈実践〉を全国へ発信したり、他県からの学びを得るために、子どもの日本語教育研究会第4回研究会に応募し採択された。発表を行うにあたり、研究倫理審査が必要か否かを学部で検討していただいた。

2019年10月12日、東京都港区立筭小学校で発表することになっていたが、台風19号

の影響で中止となった。そのため、2020年3月14日の同研究会第5回大会（お茶の水女子大学開催）で改めて発表する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で再び中止となった。そこで本報告では、発表する予定であったポスターを〈実践〉成果<sup>3</sup>として紹介する。

子どもの日本語教育研究会第4回研究会 2019年10月12日(土)於:東京都港区立斧小学校

## 出会い・気づき・学び、そしてそれぞれの変容 —高校進学ガイダンス開催がもたらした二次的意義—

原田かおり(山梨県立大学)、小林信子(ユニタス日本語学校)、萩原孝恵(山梨県立大学)  
\*協力者 斎藤祐美(山梨県外国人労働者ネットワーク・オアシス)

### 実践の場の特徴

- 2015年 ガイダンス初開催
- 2016年~ 年2回(夏と秋)開催に
- 2017年~ ロールモデル企画開始

ガイダンス開催

### 実践の場の問題点

- 資金繰り
- 周知
- ロールモデル集め
- 継続・運携

→ 詳しい説明をする前に協力を断られる  
→ 事前に約束したにもかかわらず打ち合わせの場に来ない  
→ 引き受けたが、直前にキャンセルされる

#### 1 一次的意義

**参加者に**

- ①保護者に多言語による進路進学情報を提供し理解してもらう
- ②保護者と子どもたちに、一緒に考え理解してもらう
- ③ロールモデルの話聞き、自身の将来を描いてもらう
- ④出会いの場を提供する

#### 3 ガイダンスに協力してくれた高校生ら

ロールモデル 15人  
(内訳: 高校生10人、専門学校生2人、大学生2人、社会人1人)  
スタッフ 10人  
(内訳: 高校生4人、大学生6人)

つながりのある国 インド、韓国、コロンビア、タイ、中国、日本、フィリピン、ブラジル、ペルー

#### 2 二次的意義

協力してくれた高校生らに

**変化**が生まれた(→わたしたちは気づいていなかった)

#### 4 高校生らの背景

- 過去に不就業経験あり
- 過去に不登校経験あり
- 過去にガイダンス参加経験あり
- 中学2年で来日し一般受験で大学に進学
- 全日制公立高校中退後、通信制高校に入学

ロールモデル協力?      ガイダンス参加      変化

お願いできますか?      先生? どうしよう...

振り返り      自己肯定感      収穫

ガイダンス参加      運営する側の視点      親への感謝      将来への希望

出会い・気づき・学び 芽生え

#### 5 高校生から聞かれた語り

(調査方法: アンケート 23枚回収 回収率91.3%、インタビュー のべ17名、リフレクション のべ23名内高校生ら2名) \*内容の掲載については本人の承諾を得ている

<p>A 僕は、もう少し高校について知っていた方が良かったなと思います。それは、僕自身〇〇高校しか知らないために〇〇高校のことが説明できなかった</p> <p>B (通訳を介して)日本にある、あって中国にない、その例えば入試形式とか(中略)なんかもうちょっとちゃんと勉強したほうがいかなって思いました</p> <p>C もうちょっと外国のことを勉強してもうちょっとわかりやすく説明出来たらなああって</p> <p>D もうちょっと学科について説明すればよかったなあって思いました</p> <p>E もうちょい、いいことば、使いたかったけど使えなかった</p> <p>F すごく困ってる、これから困っているっていう人たちに自分が少しでも手助けになれたっていうことはすごくいい機会だったなあって思います</p> <p>G (通訳として参加したが)ロールモデルみたいな存在になっただけって思いました</p> <p>H 中学生って高校に入ることに對して、すごく不安を持ってると言うのは、自分も経験してたからこわいこと、自分が高校に入って生活をしてたっていうことが、自分がその子どもたちに対して伝えあげることが出来るっていうことが(中略)よかった</p> <p>I ご両親の反応がとてよかったので、話しているわたしももっと話したくなりました</p>	<p>J わたし自身が言語の勉強したいんで、その女の子と仲良くなれたり、色んな国のことばっていうか、色んな国の人と触れ合えたんで、すごいよかったなあとってます</p> <p>K わたし日本語もポルトガル語も教えてあげれるし、あっちはうちに中国語と英語を教えてくださいって、もう自分のためになっただけ</p> <p>L 今日は友だちができて本当に嬉しいです</p> <p>M 不登校とかの子は、全然わたしも不登校だったんで助けられる部分は助けられる</p> <p>N 3か国語がしゃべれるんで言ってくれば3か国語で説明することもできる</p> <p>O 友だちにもいっぱい高校生がいたりするんで、呼んでくれれば、その子たちを呼んで説明会だともできる</p> <p>P ガイダンスを(中略)知らせるためにこちらががんばらないといけないと思います</p> <p>Q 中学生の時にわからなかったことが、今日皆さんの前で話を理解することができました。わたしの家庭は、ほかの家庭と比べて日本語にとても恵まれていると改めて思い、同時に心の中で親に感謝することができました</p> <p>R 大学の中も見学することができたのですごく自分のためになったと思う</p>
---	--

#### 6 結果と考察

ロールモデル協力 → ガイダンス参加 → 変化

**ガイダンスに参加したことによって高校生らに変化していた**

- (振り返り)自分のできないことに気づいて、どうしたらいいかを考えていた
- (自己肯定感)高まっていた
- (自己肯定感)似た境遇の子どもたちの役に立てることに気づいていた
- (収穫)普段の生活では知り合えない人と出会った
- (収穫)友だちができた
- (運営する側の視点)運営する側の視点が芽生えた
- (親への感謝)親の苦労に気づき、感謝が生まれていた
- (将来への希望)将来への選択肢が広がって希望を持った
- (その他)会場である大学のパンフレットを希望して持ち帰った
- (その他)大人にマナーを注意され、学んでいた

**わたしたちは気づいていなかった**

提供 → 提供 → 提供

- ・参加者に提供する側の視点しか持っていなかった
- ・高校生らの参加により生まれる意義に気づいていなかった

- 高校生らにとっても出会い・気づき・学びの場になっている
- ガイダンスへの協力が高校生らの変化を促す刺激となっている
- 高校を卒業したいという気持ちを一助となる

【謝辞】本事業は、山梨県立大学地域研究交流センターの地域研究事業として助成を受けたものです。

<sup>3</sup> このポスターは、子どもの日本語教育研究会 HP で公開され、発表とみなされる。

## 2. 3 教育支援体制構築に向けた山梨県における高校入学後の調査の必要性〈研究〉

官学民連携・協働による支援体制の構築を行っていくためには、まずは現状を把握することが重要である。そこで、本プロジェクト〈研究〉では、日本語指導が必要な外国人児童生徒の「ライフチャンス」の一つとして、「高校進学」そして「高校卒業」があると捉え、そのためにどのような支援が必要か、また受入れ後の高校でどのような問題があるのかを調査することとした。具体的には、山梨県内で帰国生徒等に対する入学後の特別措置<sup>4</sup>が置かれている中央高校、笛吹高校、都留興譲館高校の3校を対象に、2019年9月から10月にかけて調査を実施した。3校のうち2校については、訪問して直接担当者と話をすることができた。1校については、回答書という形で書面による回答を得た。本調査の意義は、次のような指摘や調査結果に基づくものである。

### ● 甲府市教育委員会 有識者会議の意見<sup>5</sup>

「高校入学後の日本語指導サポートがほとんどないので、入学後に苦労する生徒が多い。日本語能力が十分でないが故に中途退学せざるを得ないケースがある。」

### ● 『外国人子ども白書』の宮島(2017)の調査結果<sup>6</sup>

宮島(2017)は、『外国人子ども白書』の中で、高校在籍率が中学校在籍率の60%弱に留まり、こうした傾向が2005年から2015年までの10年間ほとんど変わっていないと指摘している。

### ● 日本語指導が必要な児童生徒数に関する文部科学省の調査結果<sup>7</sup>

平成28年度の文部科学省の調査によれば、日本語指導が必要な児童生徒数は全国に43,947人で、当該人数は10年間で1.7倍であるという。山梨県の場合、日本語指導が必要な児童生徒数は341人で、うち7人が高校に在籍していると報告されている。

## 2. 3. 1 研究背景

本研究の背景には、一部繰り返しの引用となるが、甲府市教育委員会 有識者会議資料に記されている、次の3つの問題が根底にある。

<sup>4</sup> 山梨県教育委員会「帰国生徒等の特別措置」[[https://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/nyuusi/documents/15h27\\_kikokuseitotounoshutugann.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/nyuusi/documents/15h27_kikokuseitotounoshutugann.pdf), 2019/05/23 閲覧]

<sup>5</sup> 甲府市教育委員会「学校における外国人児童生徒等に対する教育支援に関する有識者会議」(平成28年1月18日再掲資料)[[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/121/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/04/14/1369164\\_09.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/121/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/04/14/1369164_09.pdf), 2019/05/23 閲覧]

<sup>6</sup> 宮島喬(2017)「義務教育以降の進路—進学の道をどう開くか」荒牧重人ほか(編)『外国人の子ども白書』132-135、明石書店

<sup>7</sup> 文部科学省「『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成28年度)』の結果について」[[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/29/06/1386753.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/1386753.htm), 2019/05/23 閲覧]

- (1) 本人、保護者への十分な進路情報の提供と進路相談・指導には通訳の確保が不可欠である。
- (2) 在学期間のみを持って受験資格にすることで発生する課題として、「日本生まれ、日本育ちの子ども」でも家庭の言語環境により、ことばの力が弱く、学力も身につけていないために厳しい進路選択を迫られるケースがある。
- (3) 高校入学後の日本語指導サポートがほとんどないので、入学後に苦勞する生徒が多い。日本語能力が十分でないが故に中途退学せざるを得ないケースがある。

(文部科学省 HP : 2018.05.24 閲覧、下線筆者)

指摘されている 3 点のうち、(1) と (2) については、多言語によるガイダンスを開催し、その中で「通訳お願いカード」を発行したり、通訳を介した説明および相談会を実施したりすることで、改善策を図ってきた。しかし (3) の問題については、2018 年度において次年度への課題として残したままであった。このことから、今年度は (3) の問題に取り組むべく、まずは基礎調査を実施する計画を立てた。

### 2. 3. 2 研究概要

本研究の目的は、高校入学後の外国人生徒の状況や日本語指導等について話を聞き、高校側が抱える課題を把握することである。調査対象とするのは、山梨県内で高校入学後の帰国生徒等に対する当別措置（日本語指導）が置かれている 3 つの高校（中央高校、笛吹高校、都留興譲館高校）である<sup>8</sup>。調査方法は半構造化インタビューとし、まず質問内容を検討した。また、インタビュー時間を考慮し、質問数は 10 問とした。インタビューの所要時間は、1 時間程度を想定し計画した。なお、質問内容については、事前に各高校に知らせた。

各高校担当者とのインタビューは、2019 年 9 月に 2 校実施した。訪問の際には、まず校長先生宛の依頼状を渡し、感謝の意を伝えた。続けて、本調査の目的について説明した。また、調査結果を公表すること、個人情報取り扱いには十分に配慮することを伝え、当該インタビューの録音について意思確認をした。インタビューを実施した 2 校については、インタビュー内容を IC レコーダーに録音した。1 校については、訪問の約束はしていたが、訪問日前に回答書が送られてきたため、先方の要望もあり、当該回答書をもって調査実施とした。

### 2. 3. 3 試行調査と今後の検討

本研究で行った調査は、一種の試行調査であるといえる。なぜなら、これまで調査が行われておらず、その実態が明らかにされていない領域を対象としているからである。しかし、本調査がたとえ試行的であるといっても、その意義は本県の高校における日本語指導

---

<sup>8</sup> 山梨県教育委員会「帰国生徒等の特別措置」[[https://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/nyuusi/documents/15h27\\_kikokuseitoutounoshutugann.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/nyuusi/documents/15h27_kikokuseitoutounoshutugann.pdf), 2019/05/23 閲覧]

を考えていくうえで重要かつ必要なステップであるといえる。特に、現場の声—すなわち担当者の声—を聞くことは重要だと考える。現場の声に耳を傾けてこそ、見えてくるものがあるはずである。なお、本調査結果については慎重に取り扱う必要があることから、本報告書への掲載は差し控えるが、今後十分に検討したうえで発表する予定である。

### 3. おわりに

〈実践〉については、県内における周知・理解が少しずつではあるが、広がっている。継続して取り組んできたことと、2019年度に可決された「日本語教育推進法」が大きく影響しているものとする。〈研究〉については、今年度新たに挑んだ高校調査が今後の支援体制構築に向けて活用できる資料として期待できるものである。試行調査であるとはいえ、今年度実施した調査は、高校における日本語指導や教育的な支援体制を考えていくうえで指標となり得るだろう。今後も〈実践〉と〈研究〉の両側面から、この問題に取り組んでいきたい。

今年度の成果物として作成した冊子「山梨県の高校進学ガイダンス」を以下に紹介し、2019年度の報告を終える。



表紙



裏表紙

【資料1】 2019年度 活動記録

2019年度〈実践〉への取り組み	
第1回	2019年4月23日(火) 18:00-23:00 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第2回	2019年5月14日(火) 18:30-22:30 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第3回	2019年6月11日(火) 18:30-21:00 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第4回	2019年6月25日(火) 18:30-23:00 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
<b>第1回目 進路進学ガイダンス開催 2019年6月30日</b>	
第5回	2019年7月16日(木) 18:30-23:00 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第6回	2019年7月19日(火) 13:00-16:00 学外 出席者：小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第7回	2019年7月23日(火) 19:00-23:30 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第8回	2019年8月17日(土) 13:30-18:00 学外 出席者：斉藤祐美、原田かおり
第9回	2019年8月23日(金) 13:30-18:30 学外 出席者：小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第10回	2019年8月27日(火) 13:30-18:30 学外 出席者：斉藤祐美、原田かおり
第11回	2019年8月28日(水) 13:00-19:30 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、斉藤祐美、原田かおり
第12回	2019年9月3日(水) 13:00-19:00 学外 出席者：斉藤祐美、原田かおり
第13回	2019年9月8日(日) 13:00-19:30 学外 出席者：小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第14回	2019年9月11日(水) 13:00-17:30 学外 出席者：斉藤祐美、原田かおり
第15回	2019年9月15日(日) 13:30-17:30 学外 出席者：小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第16回	2019年9月17日(火) 18:00-24:00 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
<b>子どもの日本語教育研究会 第4回研究集会発表 2019年10月12日 (台風19号で中止)</b>	
第17回	2019年10月1日(火) 17:00-20:00 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、斉藤祐美、原田かおり
第18回	2019年11月5日(火) 18:30-23:00 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
<b>第2回目 高校進学ガイダンス開催 2019年11月17日</b>	
第19回	2020年1月15日(水) 18:45-22:00 学外 出席者：萩原孝恵、川手ちなみ、小林信子、斉藤祐美、原田かおり
第20回	2020年2月20日(木) 13:30-17:30 萩原研究室 出席者：萩原孝恵、斉藤祐美、原田かおり
<b>子どもの日本語教育研究会 第5回大会発表 2020年3月14日 (新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)</b>	

企画・準備・周知

発表準備、応募・採択、発表資料作成、全国へ発信

準備周知

【資料2】 2019年度 第1回目ガイダンスに向けた周知活動

年/月/日	機関・場所(SNS,ML含む)等	周知方法
2019/5/15	個人	チラシ配布依頼
2019/5/17	ポルトガル語通訳者	手渡し、チラシ配布依頼
2019/5/18	ペルー料理レストラン	チラシ掲示と配布の依頼
2019/5/18	ブラジル商店	チラシ掲示と配布の依頼
2019/5/18	ブラジル商店	チラシ掲示の依頼
2019/5/18	ブラジル商店	チラシ掲示と配布の依頼
2019/5/18	中央市のスーパー	チラシの掲示
2019/5/18	中央市のスーパー	チラシ掲示の依頼
2019/5/18	南アルプス市のスーパー	チラシ掲示の依頼
2019/5/19	台湾料理レストラン	手渡しと設置依頼
2019/5/20	6月30日講師 甲府市立東中学校	手渡し
2019/5/20	甲府市立東中学校	手渡し
2019/5/20	11月17日講師	メールで添付
2019/5/20	山梨学院大学	メールで添付
2019/5/20	山梨大学医学部・山梨学院大学	掲示依頼
2019/5/23	オアシス子ども会 参加者(中国人・ブラジル人)	手渡し
2019/5/23	オアシス子ども会 スタッフ	手渡し
2019/5/23	英語通訳者	手渡し
2019/5/23	高校生協力者	手渡し
2019/5/23	ユニタス 講師と職員	手渡し
2019/5/23		手渡し、チラシ掲示と配布の依頼
2019/5/24	高校生協力者	メールで添付
2019/5/24	甲州市市議員	手渡し
2019/5/25	南アルプス市 図書館スタッフ	チラシ掲示と配布の依頼
2019/5/26	高校卒業 協力者	メールで添付
2019/5/30	高校生協力者	手渡し
2019/5/30	中国語通訳	手渡し
2019/6/6	放課後等デイサービス/児童発達支援	手渡し、チラシ掲示と配布の依頼
2019/6/7	アルプス学園の子ども	手渡し
2019/6/12	(NPO)法人	メールで添付
2019/6/12	山梨子どもサポート)	メールで添付
2019/6/12	ユニタス	手渡し、配布依頼
2019/6/18	Facebook	投稿とシェアの呼びかけ
2019/6/19	中国料理店	チラシ配布の依頼
2019/6/19	高校卒業 協力者	手渡し
2019/6/19	ユニタスの対象者	手渡し
2019/6/19	小学校	手渡し
2019/6/24	6月30日講師 甲府市立東中学校	該当生徒へのチラシ配布の依頼
2019/6/25	山梨県教育委員会	6/21にメールで電子ファイル送信済、周知協力の依頼
2019/6/25	甲府市教育委員会	11校配布の依頼
2019/6/25	山梨県外国人材受入課	事業説明とチラシ手渡し
2019/6/25	山梨県立大学看護学部	電子ファイル送信
2019/6/25	甲府市市役所	チラシ配布
2019/6/25	個人	電子ファイル送信
2019/6/25	個人	電子ファイル送信
2019/6/27	山梨県立大学人間福祉学部 池田先生	電子ファイル送信
2019/6/27	山梨大学看護学部学生	チラシ手渡し
2019/6/28	IVC	チラシ配布

【資料3】 2019年度 第2回目ガイダンスに向けた周知活動

年/月/日	機関・場所(SNS,ML含む)等	周知方法
2019/9/26	高校生ロールモデル	SNSで送信
2019/9/26	高校生ロールモデル	SNSで送信
2019/10/1	スペイン語通訳者	メールで送信
2019/10/1	ポルトガル語通訳者	メールで送信
2019/10/2	11月17日講師	SNSで送信
2019/10/2	Facebook	投稿とシェアの呼びかけ
2019/10/2	山梨学院大学	SNSで送信
2019/10/2	中国語通訳者	メールで送信
2019/10/3	ソルデアミーゴの教室に通う子どもたちの保護者	SNSで送信
2019/10/3		手渡し、チラシ掲示と配布の依頼
2019/10/4	アルプス学園	SNSで送信、日本の学校に在籍する子どもの保護者へ送信依頼
2019/10/4	ベトナム人通訳	SNSで送信
2019/10/4	子どもサポート	SNSで送信
2019/10/4		SNSで送信
2019/10/7	南アルプス市教育委員会	チラシ配布の依頼(市内各小中学校日本語担当、進学担当の先生)
2019/10/7	個人(ブラジル人保護者)	チラシ手渡し
2019/10/9	NVC	チラシ配布および宣伝
2019/10/10	ユニタス日本語学校	手渡し、ご両親との参加をすすめた
2019/10/10	ユニタス日本語学校	当該学生への手渡し
2019/10/10	オアシス子ども会	チラシを手渡し、掲示
2019/10/11	南アルプス市障害福祉課	チラシ配布の依頼
2019/10/11	南アルプス市若草生涯学習センター	チラシの掲示と配布
2019/10/11	アルプス学園生徒	チラシの配布
2019/10/14	山梨大学	該当者にチラシ配布依頼
2019/10/15	ユニタス日本語学校	手渡し、ご両親との参加をすすめた
2019/10/18	山梨県教育委員会	県内の小・中学校にチラシ配布依頼(100枚)
2019/10/19	ポルトガル語通訳者	メールで送信
2019/10/19	ベトナム語通訳者	メールで送信
2019/10/16	山梨学院大学	チラシ手渡し
2019/10/17	山梨学院大学	チラシ手渡し
2019/10/17	高校生ロールモデル	チラシ郵送
2019/10/19	ベレー料理レストラン	チラシ掲示と配布の依頼
2019/10/19	ブラジル商店	チラシ掲示と配布の依頼
2019/10/19	ブラジル商店	チラシ掲示の依頼
2019/10/19	中央市のスーパー	チラシの掲示
2019/10/19	中央市のブラジル美容室	チラシ掲示と配布の依頼
2019/10/19	昭和町のフィリピンスーパー	チラシ掲示と配布の依頼
2019/10/19	中央市教会内保育園	チラシ手渡しと周知の依頼
2019/10/19	中央市みんなの居場所	チラシ手渡し
2019/10/20	甲府市日本語・日本文化講座講師	チラシ手渡し
2019/10/21	講師	該当者にチラシ配布依頼
2019/10/21	山梨大学医学部・山梨学院大学	掲示依頼
2019/10/23		メールで送信
2019/10/24	甲府市役所(市民課)	チラシ配布依頼(10枚)
2019/10/24	ベトナム人保護者	メールで送信
2019/10/24	ブラジルハンバーカーショップ	チラシ掲示
2019/11/7	山梨県立大学人間福祉学部 池田先生	開催のお知らせ、学生への周知依頼

《謝辞》

山梨県教育委員会、山梨県国際交流協会、甲府市教育委員会、中央市教育委員会、笛吹市教育委員会、南アルプス市教育委員会、甲府市役所、山梨県立大学地域研究交流センターほか、たくさんの方々のご理解とご協力をいただきました。

ここに記して感謝の意を表します。